

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第310回委員会議事録

1. 日時 平成26年7月25日(金) 9:30~17:00
2. 場所 東京都市大学 世田谷キャンパス3号館メモリアルホールA
3. 出席者 36名(順不同・敬称略)
- 委員長： 川口雅之(大阪電通大)
- 主査： 尾崎純一(群馬大)、豊田昌宏(大分大)、児玉昌也(産総研つくば)
- 幹事： 稲垣道夫(北大)、京谷隆(東北大)、棚池修(産総研東北)、
安田榮一(東工大)、塩谷正俊(東工大)、小林知洋(理研)、
藤本宏之(大阪ガス)、吉田明(東京都市大)
- 委員： 塩山洋(産総研関西)、飯島孝(新日鐵住金)、太田道也(群馬高専)、
沖野不二雄(信州大学)、戸田晋次郎(日本電極)、
中壽賀章(積水化学工業)、平田孝道(都市大)、小田廣和(関西大)、
福田哲生(新日鐵住金/代理：野相詠史)、向井紳(北大)、
近藤純子(東洋炭素/代理：森下隆広)、羽鳥浩章(産総研つくば)、
河合隆伸(日本カーボン/代理：柴田博史)、武藤浩行(豊橋技科大)、
高波浩(タンケンシールセーコウ/代理：川村良一)
- 委員外： 加藤正明(群馬高専)、西澤節(神戸製鋼所)、菱山幸宥(東京都市大)、
寺西春夫(石川カーボン科学技術振興財団)、鏑木裕(東京都市大)
- 同伴者他： 古川晋也(新日鐵住金)、曾根田靖(産総研つくば)、
兒島勇(タンケンシールセーコウ)、鶴見裕貴(タンケンシールセーコウ)

4. 本委員会議事経過

※川口委員長司会の下に本委員会を開催した。

4-1 前回議事録の承認

第309回委員会議事録(案)を承認した。

また、分科会議事録については、以下を修正する。

- ・117-309-A-1の3行目 熱分解黒鉛厚板 → 熱分解炭素厚板
- ・117-309-A-1の4行目 黒鉛基底面 → 炭素網平面
- ・117-308-A-1の13行目 上記4成分は黒鉛に固有の値であると推定された→削除

4-2 第117委員会関係

(1) 委員長報告など

① 人事異動

退任： 白石稔 委員（元東海大） → 委員外へ身分変更

② 第4回日独合同セミナー

7/7-8に向井委員のお世話で、北大（札幌）で開催した。ドイツ人招聘者4名を含め39名の参加により、2件の招待講演と15件の一般講演（うち2件は学生）が行われ、日独、産学の交流が行われた。企業からの発表が比較的多く行われた。次回は、来年ドイツで開催されるCARBON2015の後にドイツで開催する提案を受けており、今後検討する。

③ 平成26年度特別講演会

11月20日（木）午後に、例年通り特別講演会を行う。学位取得直後の若手（2名）を含む5名の講演を予定している。このうち、寺井隆幸幹事（東大）、藤本宏之幹事（大阪ガス）、石井孝文氏（東北大）については幹事会の推薦に基づき、講演者として承諾を得た。残り2名は交渉中である。

④ 次回以降の予定

- ・ 第311回： 9月12日（金）C, A, B 東京大学
- ・ 第312回： 11月20日（木）特別講演会 産総研臨海副都心センター
11月21日（金）A, B, C, D 産総研臨海副都心センター

(2) 分科会報告

- 117-310-B-1 アルミナナノ粒子を鋳型とした電極用炭素材料の合成
（東北大）西原洋知、小林俊介、干川康人、野村啓太、○京谷隆
（日産自動車）伊藤仁
- 117-310-B-2 窒素含有炭素材料の光触媒特性を利用した水電解
（大阪電通大）○川口雅之、石田有紀
- 117-310-C-1 Graphene Derivatives
（北大名誉）○稲垣道夫
- 117-310-C-2 ピッチ系炭素フィルムの構造
（大阪ガス）○藤本宏之
- 117-310-A-1 高結晶性熱分解グラファイトにおける基底面に垂直な方向の磁気抵抗
---らせん転位関連磁気抵抗---
（東京都市大）○菱山幸宥、鏑木裕、吉田明
- 117-310-A-2 ナノカーボン構造体と超小型電気刺激発生装置を用いた脳・脊髄神経の
再生促進に関する基礎研究
（東京都市大）○平田孝道

4-3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

※尾崎主査（学会運営委員長）より学会運営について以下の報告があった。

- ・入退会： 本年4月～5月の時点で会員数が900名を切り、より学会の魅力化をはかる必要がある。
- ・先日のCARBON2014には6名の若手研究者に参加費の支援を行った。117委員会の日独セミナーにも学会より補助を出した。
- ・本年度の年会（12/8-10、大野城まどかぴあ）の準備状況について：特別講演（持田勲先生）ほか、特別セッション（水素エネルギーと炭素）、国際セッション、Keynote講演での各講師が決まった。また、ポスター賞授与人数の増加を検討中である。
- ・2015年度の年会は、関西大学の小田先生のお世話で開催される予定。また、今後は年会担当を運営委員会内に設置し、実施当事者の負担を軽減する体制を整える。
- ・講習会・セミナーについて。6月の先端科学技術講習会は京都で開催され、蓄電池用炭素材料というテーマで参加人数81名だった。今後は、8月25～26日に夏季セミナーが仙台・秋保温泉で実行委員会主催で開催される。また、スキルアップセミナーが9月5日に燃料電池の開発動向をテーマに、連合会館（東京）で開催される。
- ・新カーボン用語辞典について作業状況の報告があった。ワーキンググループから担当者へ用語の割り当てを行っているところである。
- ・AACGの会議に関しての報告があった。CARBON2020を京都で行いたい旨を表明した。一方、トルコも開催に意欲を示している。議長がHui-Ming Cheng教授からPark Chong-Rae教授に変わり、また、AACGの表彰の設置が議題としてあげられている。
- ・連載講座単行本の献本と書評依頼を電気化学会、セラミックス協会に行い、日本化学会の「化学と工業」への書籍広告掲載の準備を進めている。

※沖野委員（学会編集委員長）より炭素誌について以下の報告があった。

- ・264号にはCARBON2014や日独セミナーの開催報告が掲載予定。論文は少なめである。265号は燃料電池の特集号で、一般投稿も来ている。

(2) 国際会議関係

CARBON2015が来年7月12日からドイツ・ドレスデンで開催される旨が紹介された。また、来年は層間化合物国際会議（ISIC18）がフランスで開催される旨も紹介された。京谷幹事からは、スペインとの共同研究でジョイントセミナーをスペインで開催することが紹介された。

(3) CARBON誌関係

羽鳥委員（CARBON誌エディター）より、最新の採択率が約25%であることや、日本が採択数で4番目、投稿数では5番目という状況であることなどが紹介された。

(以上)